

転化する。

色 赤―青―いろいろ。「赤や青など」の意味である。

居る 握り拳にした両手をそれぞれ左右頭の両側に掲げてから、両腕の肘を下へ引き降ろす。どっしりと居坐る身振り。

祝う めでたい―云う。

云われる 「云う」の受身。五指の指頭を集め合わせたのを、自分の顔に向けて、ぱつと五指を開く。先方の言葉が自分に向かって放ち送られたこと。

隠居 腹の前で掌を内側にした両手の五指を下に垂らしてから、次に胸もとに上へ引き寄せる（仕事事業から手を引く意味）。そしてその両手の掌を上向けて、両脚の上に載せる。何にもしない両手を膝に置いている姿。

印刷 五指の指頭を前方にさした左手の掌の上を右手の掌で前方に刷る。手刷り印刷の

動作。

印紙 人差指と中指の指頭を舌の上に持つて行き、唾をつける真似をして、次に左手の掌の上に右手の二指で印紙を貼りつける真似  
淫売婦 片目で指頭を上にした中指と人指の間から（掌は前向き）覗き見る真似をして女性（小指）を差わす。店の格子の間から外を覗いて遊客を待つ娼婦。

印判 五指で印判を持つ態で、口もとに持つて行き、口の息で印判に残っている印肉を温める真似をして、左手の掌の上に印判を押す身振り。

ウ

飢える 五指の指頭を下方にさし掌を内側にした両手で腹を圧さえ、そのまま下へさすり降して行く。腹の皮が背につくばかりの空

腹の状態

魚 五指の指頭を前方にさし、掌を左に向けた右手を魚の休として、その手をくねらしながら前方へ進ませ、魚の水中游泳を表現する。

受合う 責任を負う。五指を彎曲して掌を下に向けた右手を、右肩の上に被ぶせるように置く。「引受け」の手まねともなる。

兎 両の肘から手先までを兎の耳として、頭の両側に腕をあてがう。(肘が前方、手は後方)

牛 両手の人差指を牛の角形に曲げて、頭の両側に置く。

失う 握りしめた右手を腰の右脇につけて、五指を開いて下を落す。

ズボンのポケットから、物を落したと云うように。

嘘(うそ)(嘘言うそう)

「欺く」「いつわる」と同

じ。即ち、口の中で、舌をねじらせて、片頬をふくらませて、その頬を人差指の指頭で叩く。

歌 唄う 声が散るのを防せぐように、五指の指頭を上になしし掌を右に向けた左手を口の左脇にあてがい、右手指頭を上になした人差指を口唇につけてから、その指を前方へリズムのつもりで上下に波を描きながら進ませる。

打合わせ 両手の指頭を上になした親指を胸の前で対立させて、折り曲げた両手の四指の背を打ち合わせる。

顔を(親指と親指)をつき合わせて談合すること。「相談」「会議」の手まねともなる。

内側 左手の五指の指頭を右になしし掌を内側にして、右手の人差指で左手掌(内側)をさす。